



大森二中だより

令和3年度 大森二中の合言葉「思いやり」
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

令和3年7月号
大森第二中学校
校長 成清敏治
電話 3762-6456

「カーボンニュートラル」と30年先

21世紀に入って20年が過ぎました。当然、皆さんは21世紀を生き抜く世代です。未来を思考することは、時代のスピードが劇的に速くなった現在、とても大事なことになってきました。自分が生きていく時代はどんな時代なのか、いろんな人と意見交換するのも良いことだと思います。今のような生活スタイルが持続可能ではないことは、いろんな専門家が世間に発表しています。

最近、注目を浴びている言葉に「カーボンニュートラル」があります。実はこの言葉は、環境用語であり、2006年というかなり前に、英語辞典『新オックスフォード米語辞典』で「今年の言葉」にも選ばれていました。日本人は最近までこの言葉を知らなかったといえそうです。この環境用語は、最近では経済の分野でも注目を浴びていますが、そもそもこの「カーボンニュートラル」とは何なのかというと、

『地球の気温上昇を抑えるために、温室効果ガスの排出量をプラス・マイナスゼロにする』

ということを目指します。世界の気温は、2019年、2020年と過去最高レベルの気温になりました。その気温上昇の原因は、大半の科学者はすでに結論を出しています。それは、97%以上の科学者が、「人間の社会活動により気温が上昇していること」に同意しているのです。また、このことに伴い、自然災害が頻発に起こるようになりました。毎年のように、大雨や洪水などによる災害、巨大台風による災害など、温暖化の影響によるものと推測されています。日本も現政権が「2050年カーボンニュートラル」を打ち出しました。様々な背景もありますが、今ここで悪循環を少しでも改善していく方途を示す必要があったと思われる。

大森二中でも、身近な生活からSDGsを考える取組、その5番目に「エコ」と題して、エネルギーの無限性を否定し、日頃から節電・節水等を考えていくことが必要だと訴えています。SDGsは2030年までの目標ですが、カーボンニュートラルは2050年、あと30年先です。今の生活を少しでも変えていく、今とてつもなく大きな時代の転換点にいるという実感をもつことが大事です。自分の生命に直接関わっていく、そんな事象に世界は直面しつつあります。早くこのような環境にいることを気付いた者だけが、これからの時代を上手に生き抜いていく、そういう時代だとぜひ認識してください。自分の未来は自分で責任をもつ、そんな生き方を目指して、日々笑顔で頑張っていきましょう

(全校朝礼 7月5日)

